



お産&子育てサポート

発行・編集
お産&子育てを支える会
代表 齊藤 智孝
編集者 東 直美
TEL/FAX 090-7103-2240



「B Corp認証」って何？

「B Corp 認証」とはアメリカの非営利団体「B ラボ」が運営する認証制度で、株主利益だけでなく、社会や環境に広く利益を生み出す企業に対する国際認証です。企業は、「顧客・ガバナンス（企業統治）・従業員・コミュニティ・環境」の5つの分野で200以上の質問に回答し、80点以上のスコアを獲得すると認証が与えられます。B Corp 認証は2007年の夏に19社の先駆企業から認証がスタートし、その年末までに81社に増加。それから17年の時を経て現在では、104カ国9201社がB Corp 認証を取得しています。欧米に多く、有名なのはアメリカのアウトドア用品のパタゴニアやフランスの食品大手ダノンが代表的です。日本法人のB Corp 認証取得企業は2024年10月時点で45社とまだ少ないですが、ここ1～2年で大きく数が伸びており審査申請中企業は37社となっているそうです。有名なのはフードロス削減をめざした「クラダシ」は2022年6月にB Corp 認証を取得しています。食品業界では慣例であったパッケージの傷や賞味期限問題で流通にのらなかった食品を割安で販売し、その売り上げの1～5%を環境保護や社会福祉の団体に寄付しています。他にも植物化粧品メーカーの「ネイチャーズウェイ」や「日本ダノン」が有名です。この認証を受けることで税制優遇や特別な措置が受けられるわけではないのですが、今までの利潤追求だけの企業では国際社会では認められない傾向が出てきたのかもしれませんが、企業運営によって得られた利潤を、環境保護活動、社会正義の促進など、広範な公益を追求するためにも用いる、新たな組織形態とする企業が求められてきているのでしょうか。その企業姿勢を公に示すことで（B Corp 認証を取得）、顧客や投資家からの信頼を獲得する手段となったり、優秀な人材確保にも繋がるとも言われています。認証企業は、環境に配慮したビジネスモデルや社会的責任を果たすことで、持続可能な未来への貢献と言う大きな役割を果たしているのだと思います。

CO2排出による地球温暖化やマイクロプラスチックやダイオキシン、使用済み核燃料等による環境汚染、生態系へ悪影響など、全て人間が便利さを追求し快適な生活を得るために化学を発展させ開発してきた結果、なるべくしてなった現在の地球です。企業は儲けるために快適で便利な商品を開発し消費者に提供してきましたが、使わなくなったり壊れた後のことは考えていません。破棄された後はどうなるのでしょうか？野ざらしや埋め立てで、土壌汚染、水質汚染を招き、最終人間の健康に影響を及ぼしています。企業は開発、製造、販売にプラス回収責任とその処理を考えるべきではないでしょうか？このB Corp 認証はそう言った従来の企業のあり方を問題提起しているように思います。消費者である私達も使い捨て商品や、便利で快適な生活を見直しませんか？



「出産ナビ」・「産み場所の減少」・「出産費用の保険適用化」 って知ってますか？



「出産ナビ」ってご存じですか？

厚生労働省が立ち上げたサイトで、誰でも観ることができます。

出産費用の高騰に対して、それをカバーするために出産育児一時金を増額する、その繰り返しが続いています。国はそう言った対応に終止符を打ち、2026年には出産育児一時金を増額するのではなく、「出産費用の保険適用化」に切り替えるようです。そのための一歩として、「出産ナビ」というサイトを立ち上げたようです。日本中に出産施設が個室があるのか、どんなサービスが有るのか、立ち会いや無痛分娩ができるのか、助産師が何人いて、どのようなサービスを提供しているのか等々、そして国が最も妊婦さん達に知らせたかったと思われる、出産費用がどれぐらいかがわかります。近くの出産施設を一度

検索してみてください。

出産場所の選択理由ですが、平成30年(令和元年)の滋賀県民の意識調査では57.0%が自宅(実家)から近い、34.4%が食事がおいしい、28.8%が病室・設備が良い、26.3%がスタッフの対応や評判が良いでした。出産費用が上位の選択項目に入っていません。経済的に困った人がいなかった訳では無いと思います。知る術がなかったのです。何処の出産施設のHPやパンフレットを見ても出産料金については明確にしている施設は少なかったと思います。

出産後の請求書でびっくりだったと言う人もいたのではないのでしょうか？今回の「出産ナビ」のサイトはそういう明確でない部分もありますが、知りたい情報が閲覧できるようになったのです。しかし、どれだけの方がこのサイトを



ご存じかは不明です。妊産婦さんが上手に利用し、出産場所を選ぶ1アイテムにしてもらえれば良いかなと思います。

ですが出産場所を選択できない地域も増えてきています。産婦人科医の高齢化で閉院、あるいは今年から始まった医師の働き方改革(医師も一般労働者と同じように長時間労働が禁止)で、医師が一極集中されるようになり、中～小規模の総合病院の産科から産婦人科医の引き上げで1人しか産婦人科医がいなくなる状況が起こり、閉鎖せざるおえないと言った事が色んなところでおこっています。産み場所がドンドン減ってきています。そのため1時間以上かけて産みに行くのが珍しくない地方が多々でてきています。つまり、産み場所を選べない状況にもなっています。隣の三重県では今年度4ヶ所の産院が閉鎖、2自治体が産み場所のない陸の孤島となっているそうです。

“出産ナビ”で出産費用はわかるようになっていても産み場所は選べない状況が地方では出てきています。少子化対策で国は産後ケアを含む色々な手立てを実施していますが、この産み場所減少が更なる少子化に拍車がかからないことを祈りたいです。そして、「**出産費用の保険適用化**」で少子化が加速しないかも心配です。

出産は生理的現象で病気ではありません。保険は使用できずに自費です。何十万もかかる費用を出産育児一時金の50万円が国民健康保険団体連合会や社旗保険診療報酬支払基金から支払われるので、実質出産費用の自己負担額は50万円を差し引いた額を現在は支払っています。しかし、国は**2026年度には今のシステムを廃止し、保険適用化に踏み切る**ようです。通常、出産費用に保険を使うとなると単純に考えて3割負担になる?と考えますよね。出産費用が60万円なら、その3割の18万円を請求される?となります。

現在の制度のままだと10万円しかし払わなくて済みますから、保険適用化は出産費用の自己負担を増やすこととなります。これは単純に保険の3割負担から考えての計算ですが、国は出産費用の保険適用化の中身を明確にしていません。出産の約8割を占めるお産は正常で病気じゃないから保険は使えない、医療行為の部分だけ使う?いやいやそんな事はないだろう、通常のお産にも使えるんじゃない?無痛分娩は使えないでしょう?等々色々な意見がお産の業界では飛び交っています。特に正常なお産しか扱えない助産院(助産師が経営する出産施設)では全額自費になったら助産院で出産する人は激減するのではと危機感を抱いています。また、医療行為にしか適応しない保険となれば、医療機関で正常なお産はなくなるのでは、しなくてもいい医療行為が横行するのではとも考えたり、出産数が少ないクリニックは保険適用されたら経営が成り立たないから閉院せざる終えないと言った噂も流れています。保険適用化の中身が明確でないがゆえにお産の現場は戦々恐々状態になっています。先進諸国ではお産の費用は全額無料のところが多い時代です。

今回の医師の働き方改革による出産場所の減少やお産の費用の保険適用化の中身次第では少子化はひどくなるでしょう。子どもが産まれないと言うことは、将来の納税者も減り、国の収入も減るわけです。世界からみると日本は衰退する国になってしまうのでしょうか?これから産む人達が安心して出産できる状況になることを願うばかりです。

そして、産む女性自身が考えてほしいのです。**どこで産むか?ではなく、どんなお産をするか**、それがまず第1です。どんなお産をするかが決まれば、何処を受診するかも決まってきますよね。



お産子の家イベント案内

- 5日(火)10:30 ~ マミーハウス
- 9日(土)13:30 ~ しあわせお産相談会
- 11日(月)13:30 ~ ベビーマッサージ
- 12日(火)9:00 ~ 鍼灸の日
- 13日(水)10:00 ~ ベビーママヨガ
- 14日(木)10:00 ~ ぬぬの会(ランチ付き予約制)
- 16日(土)13:30 ~ お産塾
- 19日(火)10:30 ~ 産後セルフ整体/13:00 ~ 産前
- 23日(土)13:30 ~ 八幡ママパパレッスン
- 26日(火)10:30 ~ すっぴんまんぷく会
- 27日(水)9:00 ~ 鍼灸の日

10月18日(月)10:00~13:00
「こちゃ混ぜチャムブルな 居場所猿の群れ」
八幡・助産院月の小屋

11月

【お産の写真展】
10月26日(土)~11月10日(日)高月(長浜)図書館
11月10日(日)~11月30日(土)竜王図書館

あつちわくわく おっぱい塾
20周年記念講演会

「家族をつなぐ授乳」
廣瀬 潤子氏
京都女子大学家政学部教授

参加費 500円

2024.11.30(土)13時~15時
産の湖時でしん

第22回 いいは産の日 in しが
2024 11.3(祝) 参加無料
13:00~16:00 (受付 12:50~)
アピアホール (近江鉄道八日市駅前平和4階)

「今こそいっしょに考えよう!」
日本のお産・子育てを守るために!

出産費用保険適用化で
お産が変わる!?

ゲスト
片山 由美氏 (中野11助産院院長) 松方市
齋藤 麻紀子氏 (NPO法人Umの代表者) 横浜市

主催: 共同助産所お産子の家
本事業は公益財団法人三万五基金の活動助成金を活用した事業の助成で開催します

11月3日御参加を!

- 【おっぱい塾】10:00~
- 1日(金)お産子の家
 - 14日(木)八幡ことしん
 - 19日(火)八幡ちはちはび広場
 - 26日(火)水口まるむ
 - 28日(木)安土コミセン

